179

秋山個人山行報告書

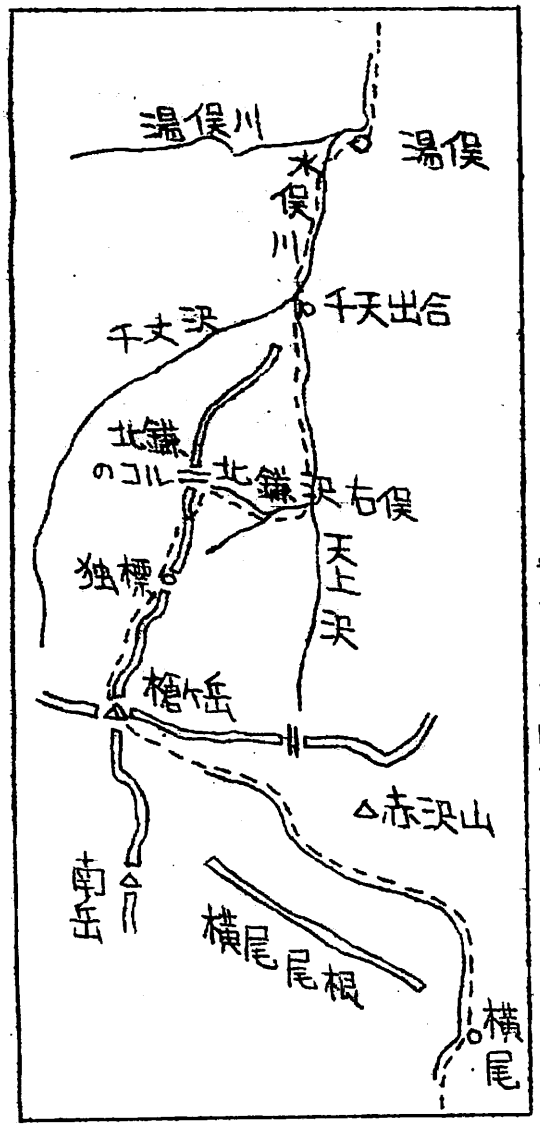
SAC
信州大学山岳会

目次

- 北鎌尾根　9/22 ～ 9/24
- 北岳バットレス　9/22 ～ 9/25
- 明星　9/27 ～ 10/1
- 奥穂山　10/12 ～ 10/14
- 南アルプス北部縦走　10/15 ～ 10/18
- 明星山　11/3 ～ 11/4

北鎌尾根縦走　9月22日～24日

L、師田信人(M-5-VI)、岩村孝之(A-1-I)、
田渕 潔(A-1-I)



9/22 ◎→●

松本→大町→葛温泉→湯俣より
14:50　16:00　17:00
少し手前のトンネル
20:00

葛温泉からは夜の道路を遠々と行く。高瀬ダムまでは3つほど長いトンネルがあった。トンネルの中に車が入ってくると低い無気味な音が響いて、あまりいい気分ではない。

高瀬ダムの登りは精神的にしんどい所である。傾斜のゆるい道路がジグザグに、ダムのはじからはじまで何往復もするようにつけられていた。

ダムを登りきるとすぐトンネルに入る。夏合宿のときに歩いた黒部ダムのトンネルに似ている雰囲気だ。いくつかトンネルが続いて、東沢の出合付近まで来ると雨が降りだしてきた。当分やみそうにないので今日はトンネルの中にテントを張ろうかという事になって、晩メシのパンを食ってひとまず落ち着いた。しかし別の者の2人ずれパーティーが千天出合まで行くと言ってトロトロ歩いて行くのを見て、ボクらも再び歩き出した。最近完成した高瀬ダムの出現によりこのあたりの歩道もかなり整備されたようである。ヘッド・ランプをつけていれば夜でも歩ける道だった。湯俣まであと30分ほどと思われる地点にトンネルがあり、今日はここに泊まる事に決定した。このトンネルも最近になって内部の石やジャリがどけられたため、今回のようにテントが張れたようである。

9/23 ◎→●　T.S.→湯俣→千天出合→北鎌沢
5:50　7:00　8:40　10:00出合

→北鎌のコル → 独標、近くのテン場
11:40　　13:40

朝は一応雨はあがっていた。高瀬川を清流をながめながら歩くのはきのうのトンネル歩きよりはずっと楽しかった。湯俣から千天出合までは登山道と言われるような整備された歩道はなくなり、やがてそれは河原歩きとなった。途中ササの中の道を間違えて時間をくってしまった。連休であるためか、天気があまりよくないにもかかわらず、ボクらのパーティーの他に3パーティーぐらいの登山者がいた。

北鎌沢の出合は注意していないとうっかり通りすぎてしまうような所だった。しかしそこから北鎌尾根につづいている明瞭な沢筋が見えるので、これが北鎌沢なのだとわかる。北鎌尾根にはわずかに色づいている木々が所々に見られ、山の秋を感じさせた。

北鎌沢の右俣にはいるとしだいに傾斜も強まってくる。上部はササの茂る草つきのような所もあり、苦しい所であった。田渕がこの登りでバテた。北鎌のコルに出てから雨が降りだし、ガスも濃くなってきた。雨が降ったりやんだりする中をトロトロと歩いて独標より1つ手前のピークの基部のテント・サイトに幕営。

9/24 ◎→◎　T.S.、→槍ヶ岳 槍沢下降 上高地
5:30　　11:00　　17:00

独標はトラバースルートを行く。踏み跡通りにひたすらトラバース。ガスで見通しがきかなかったため、しばしばルートを間違えて苦労した。独標をまいてしばらく行った所で田渕が転落。(8:30ごろ) 5mほど空中を落ちて岩にぶつかってガレ場を20mほどすべっていった。明瞭な踏み跡もあったのでルートは正しかったと思われる。運よく腰をうっただけで、なんとか歩ける程度だった。転落したルートとは別のルートをカンザイレンして登り、槍までは荷物を少し(固装)を持ってもらった。

転落した場所はホールでにえい溝のような所であった。

事故に関すること：適当なでっぱりをなんとなくつかんでそのホールドに体重をかけて登ろうとしたため、手が離れて放り出されるような形で落ちてしまった。根本的な岩登り技術の未熟さはもちろんのこと、体力不足で集中力がなかった事も原因の1つだと思った。もっと慎重に足で登るようにすればずれ落ちるぐらいで済んだかもしれない。今年は夏から事故が続いていて、今回は気を付けて行こうと思い入山したが、こういう事になってしまった。自分自身がその場その場で注意を喚起できるような体力や集中力を身に付ける事も重要だと思った。

(田渕)

北岳バットレス

○日程　9月22日～9月25日

○メンバー　(L)加藤喜章
田中誠司
木下善夫
川渕浩二
田辺治

○行動概要

22日 ● 伊那北 ═バス═ 戸台 5:30 ── ダムのすこし上 6:20

23日 ① T.S 6:15 ── 北沢峠 10:30 ── 広河原 1:05 ── 大樺沢二俣 3:15

24日 ◎→◎

・上部フランケパーティー

L.田中，木下，田辺

T.S 5:00 ── dガリー大滝 取付6:30 ── 上部フランケ ── 四尾根 ── 中央稜ノーマル 終了5:00 ── 北岳山頂 ── 八本歯 ── T.S 9:30

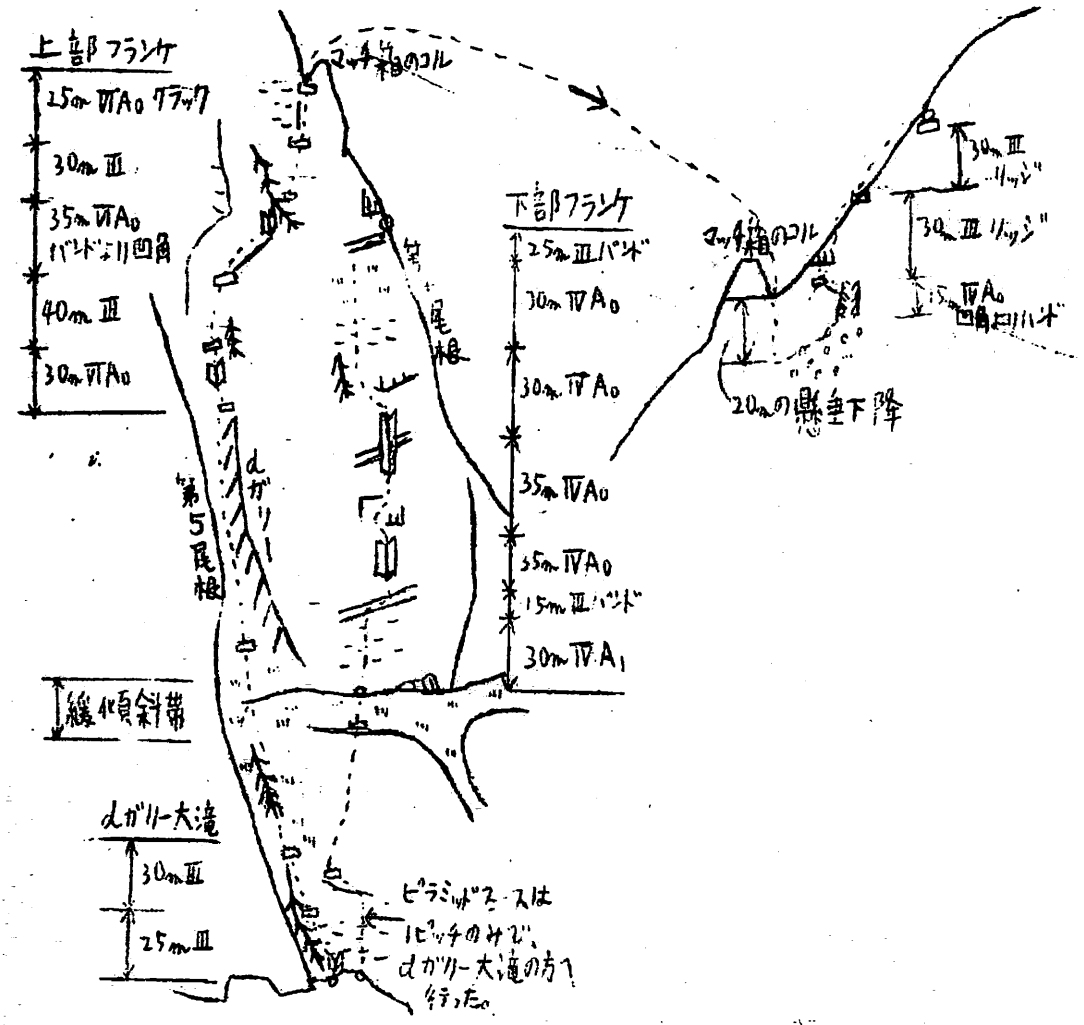
・下部フランケパーティー

L.加藤，川渕

T.S 5:00 ── ピラミッドフェース 取付6:30 ── dガリー大滝 ── 下部フランケ ── 四尾根 ── 中央稜ノーマル 終了6:30 ── 北岳山頂 ── 八本歯 ── T.S 9:30

25日 ◎ T.S 11:30 ── 広河原 12:30 ═タクシー═ 甲府

○ルート図



○感想　がスっていたこともありますが、北面バットレスは取付が非常にわかりづらい所です。岩壁にはたくさん大がとりついていて、落石が解かった。懸行機の見降下のような音をともない、石が飛んでくるので、恐怖を感じました。連続して登ることをしてなかったので、腕力が消耗し、結局IVA0の所でアブミをつかってしまった。腕力をつけなくてはいけないです。

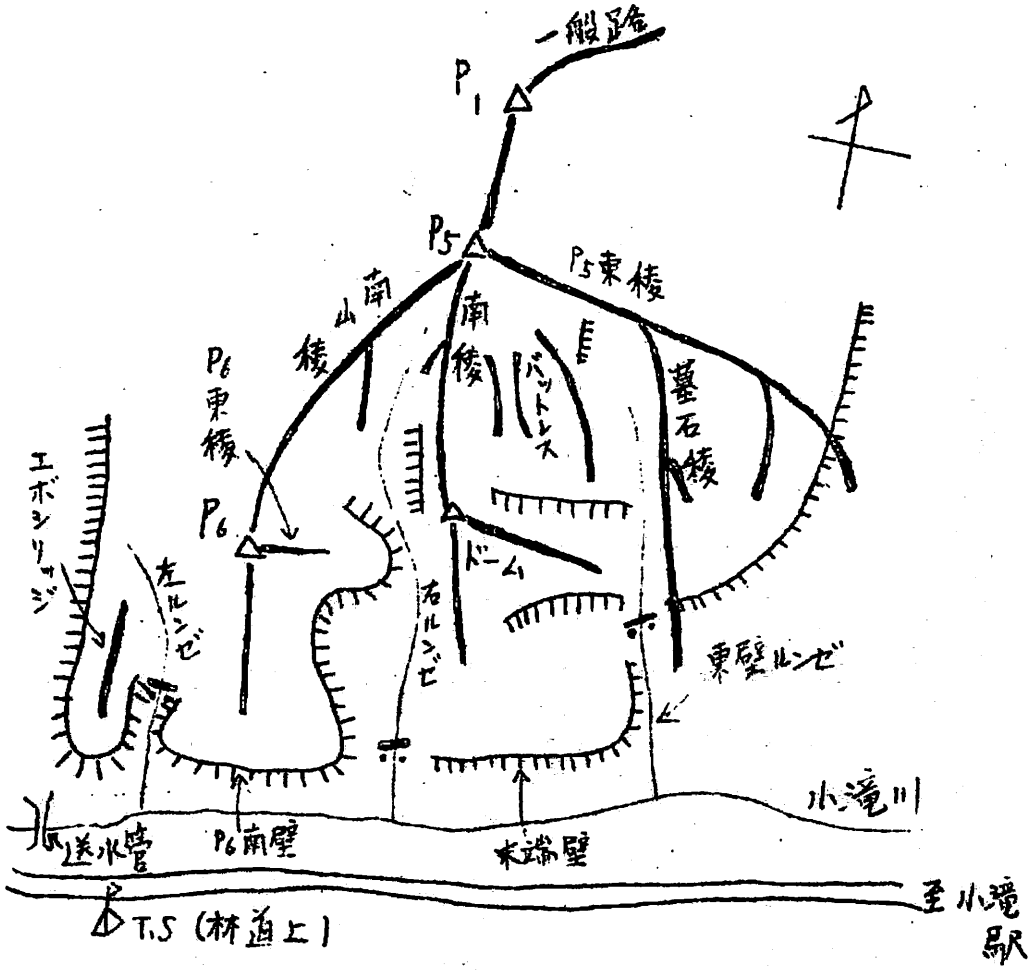
(田辺).

明星山周辺の登攀

9月27日～10月1日
メンバー　L、片山博彦
山本岡井雅大
吉道泰
藤原卓也
戸澤茂三見

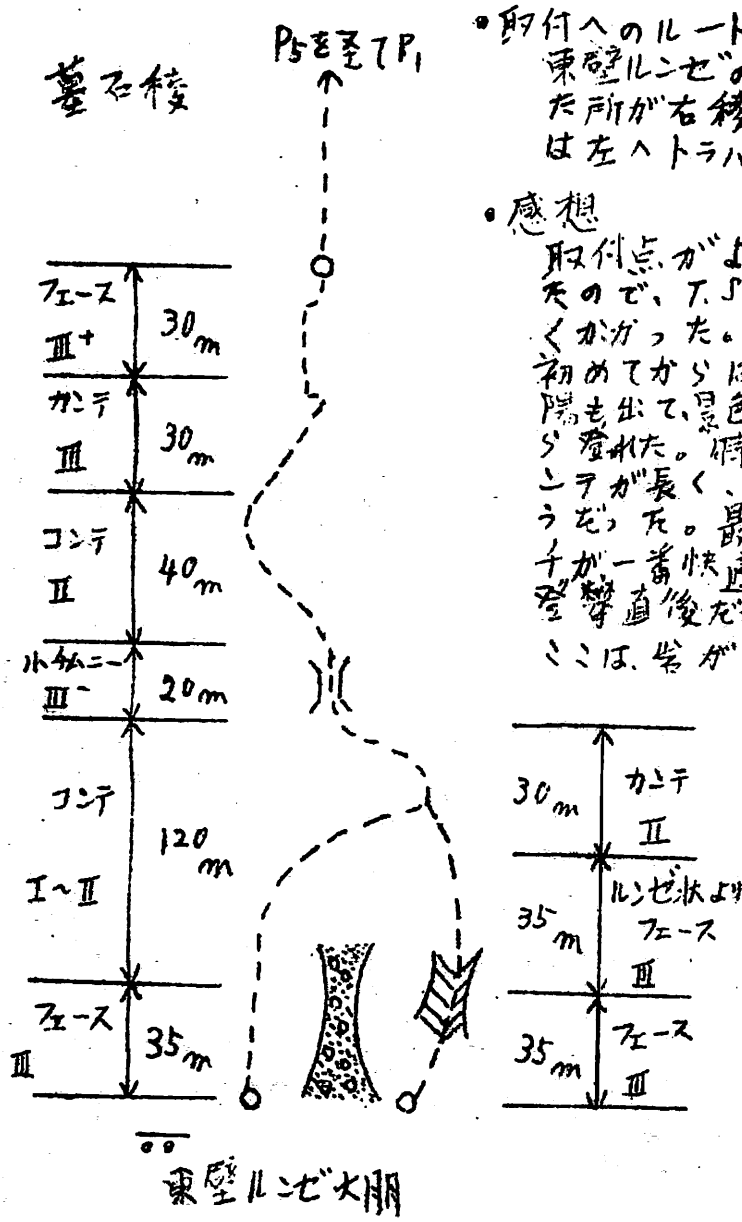
9月27日　松本 …… 小滝 ── ヒスイ峡付近の林道

○小滝川増水のため渡渉不能



9月28日　T.S ―― 東壁ルンゼ ―― P5 墓石稜 ―― 岸 ―
―― 明星山 ―(一般路を至て)―― T.S

左稜　吉岡，藤井
右稜　片山，茂岩、関

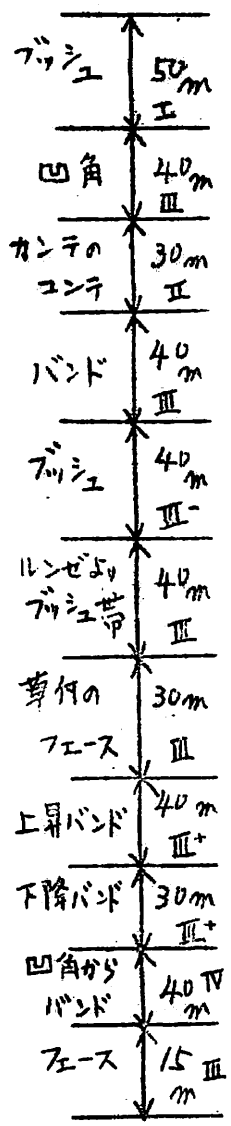


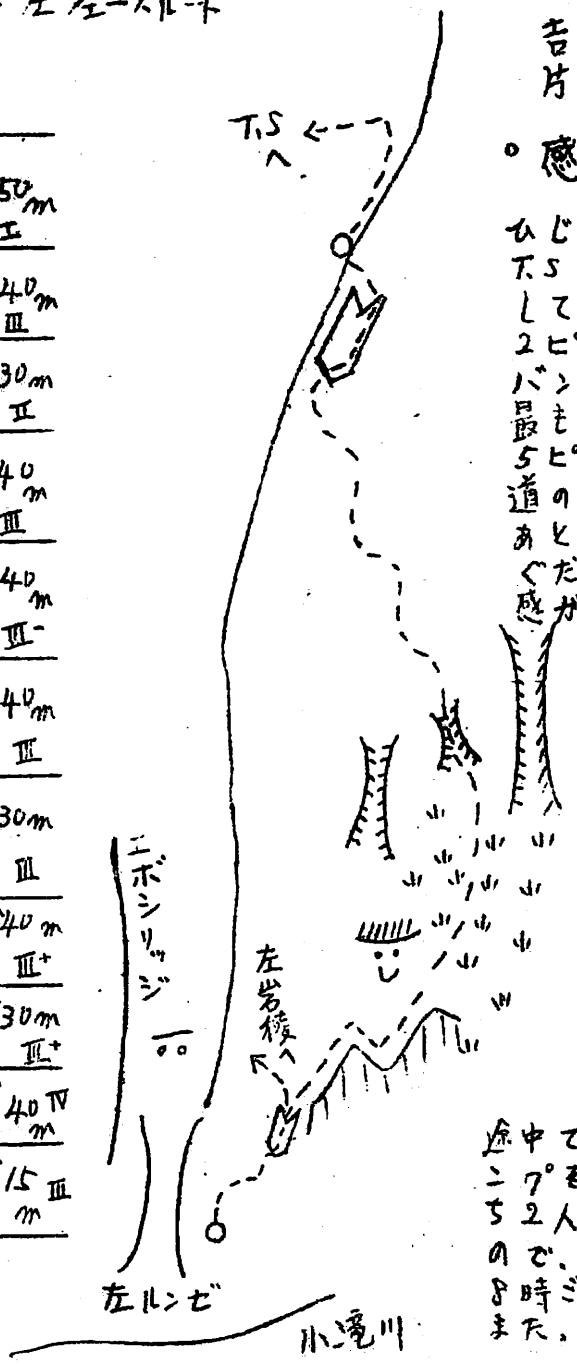
• 取付へのルート
東壁ルンゼの大棚を巻いた所が右稜の取付。左稜は左へトラバース，

• 感想
取付点がよくわからなかったので、T.Sから2時間近くかかった。しかし、登り初めてからは快適で、時々陽も出て、景色をながめながら登れた。特に右稜はコンテが長く、岩稜歩きのようだった。最後のIII+のピッチが一番快適だった。雨は登攀直後だったのでよかった。ここは、岩が石灰岩のため、ぬれると、ヌルヌルになり登れなくなる。下りはP1を至て、一般路を下山した。

9月29日　T.S ◎ ——P6南壁左フェースルート ① ——T.S ①

P1南壁左フェースルート





吉岡－関
片山－茂呂－藤井

○感想

南壁への取付はひじょうに簡単だった。T.Sから小滝川を渡渉して、ほぼ15分位だった。2ピッチめの、凹角からバンドへぬける所が、最もむずかしかった。5ピッチ目位で、ほぼ林道の高さと同じになりあとは、ただ高度をかせぐだけになるが、高度感があったので、下を見ずに登った。

9ピッチ目あたりから落石が多くなった。また、ここから、1年の藤井と茂呂が交代でトップをやった。こわかった。片山さんは、ユーザイルで1人で登った。

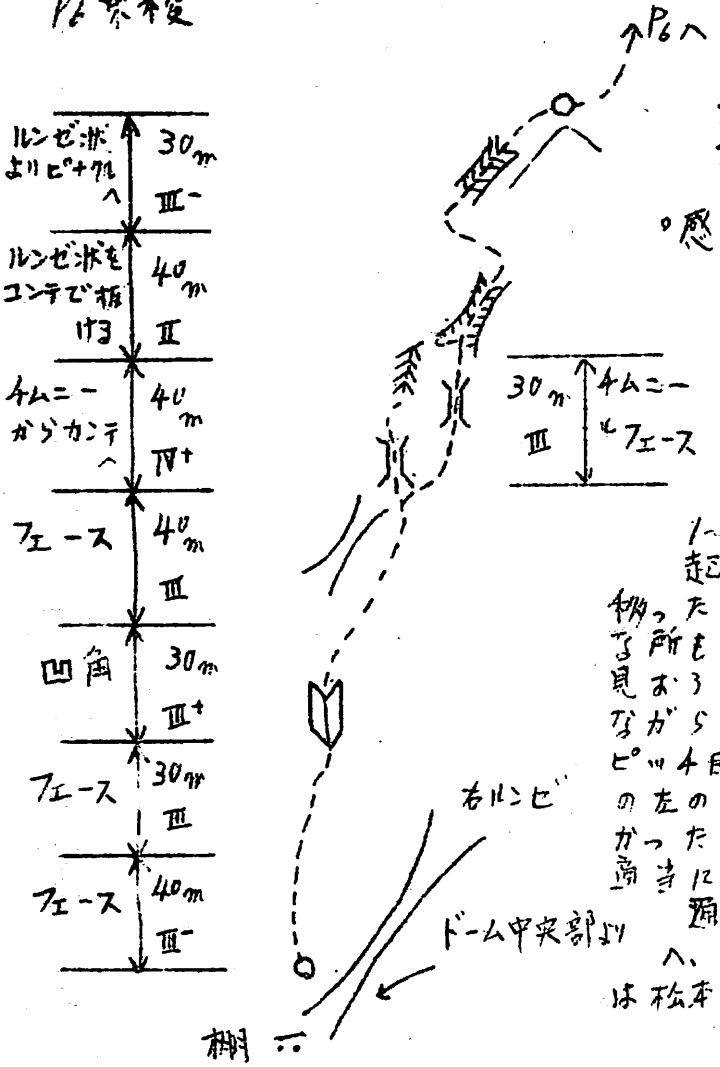
下りはブッシュの中を適当に降りるのであるが、途中1回アブザイレンをした。また、途中で日がくれて、ヘッドランプをつけたが、5人のうち2人のしか使用出来なかったので、しんどかった。T.Sには8時ごろ着いた。

また、夜山本さんが入山した。

9月30日　T.S ―東壁ルンゼ―P5ドーム状ンゼ状ルート
◎　◎　◎

下部―右ルンゼ―P6東稜―P6―T.S
◎　◎　◎　◎

P6東稜



右、吉岡、牧呂
左、小本・関・藤井

。感想
しんどい東壁ルンゼを通り、ドームの取付をさがしながら登るうちに、約3ピッチ4分ほどノーザイルでルンゼ状ルートを登っていた。さらに、ザイルを使い1-2ピッチ登り、右ルンゼを越えて、東稜の取付へ移った。P6東稜は別に困難な所もあまりなく、上から見おろす小滝村の風景を見ながら登った。ただし、4ピッチ目の最初と、5ピッチ目の左のチムニールートが、難かしかった。下は、ヤブの中を適当に下り、送水管の上を通り小滝川を渡り、T.Sへ、クヲ、関、藤井、牧呂は松本へ下山。

10月1日　T.S ―小滝―松本
◎

台風の通過により、夜中にテントをつぶされたため、小滝駅まで下り、駅で夜を明かし、松本へ。

奥鐘山西壁鷲岳会直上ルート登攀

L. 山本章　M 山本雅大　10月12～14日

行動概要

12日　松本－早稲田－欅平(山本ア)1:30－西壁下岩小屋 2:30
①/◎　水平歩道　(アキラ)

13日　鷲岳会直上ルート取付 AM 6:40 － 終了点 PM 3:10 － 横断バルド BP PM 4:30
○

14日　BP 7:30 － 奥鐘山山頂 8:30 － 南越 10:20 － 名剣温泉 11:00 － 欅平
○　－早稲田－松本

12日
取付の岩小屋までは、黒部川を遡行した。水量は膝ぐらいまであったが、個人的に渡渉してしまった。

岩小屋はなかなか住心地良かったが、ゴミが多かった。小屋においてあるシートやマットを敷んでヒコをつぶす。酒を持ってこなかったことを非常にくやむ。アルファ米半分をおかゆにして(1人分)飲む。シュラフカバーにもぐり込むが寒くてねむれぬ夜であった。

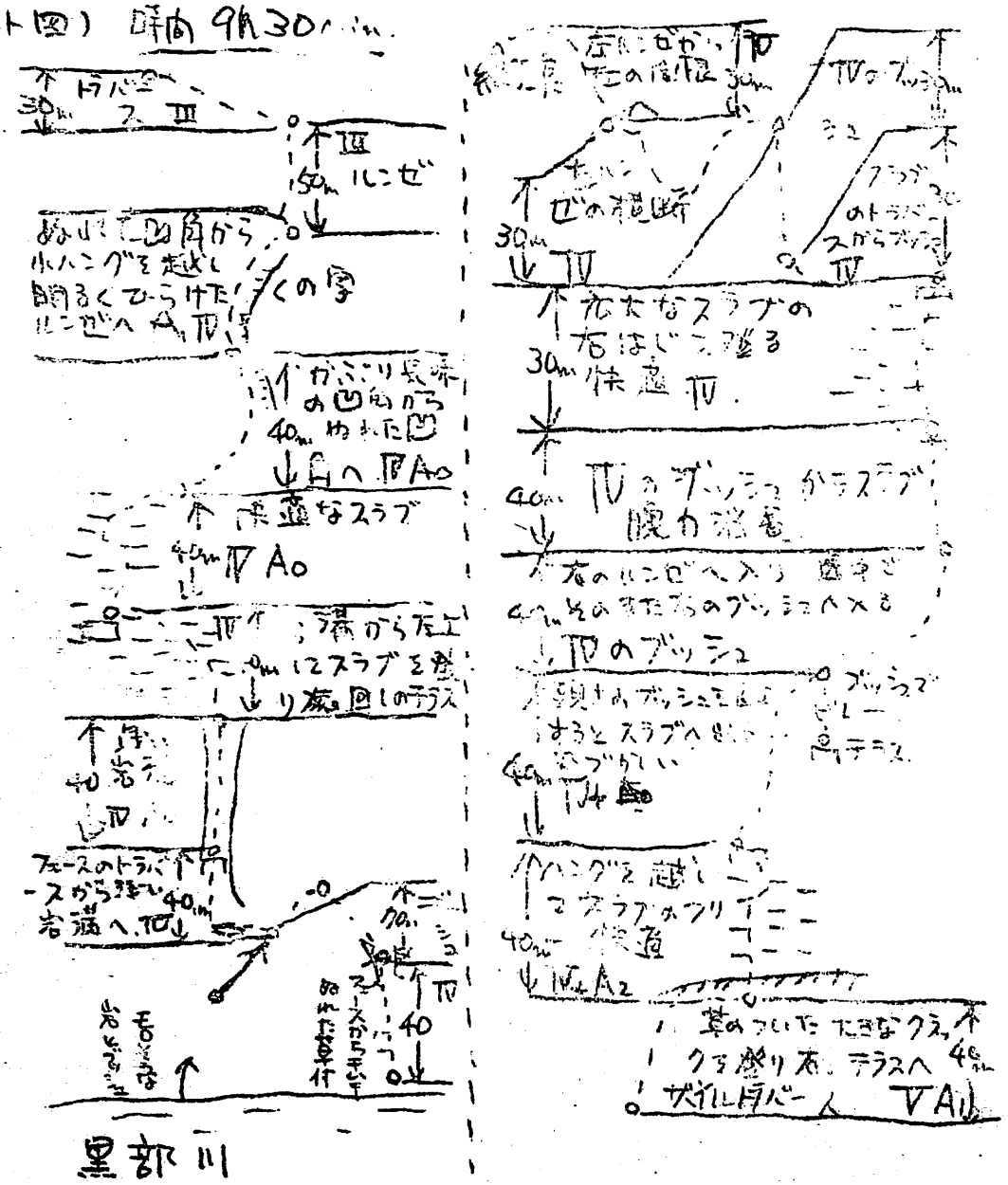
13日
取付けるのに必死からまいり込んだ。(ルート図参照)
ルートは全体的に明瞭で比較的よく登れた。いちばんつまづいたのはハング下のトラバーンでむづかしかった。
なかなかのスリルであると思う。終了点からブッシュをこいで横断バルドへ入りちょっとした空地でビバーク。やっぱり、21時には寝れる。

14日
5時ごろ起きてメシを食う。対面に坊主山、地獄山がかっこいく見えている。6:30ごろ出発、中ボルにぶを横切り、尾根に取付いてそれを山頂目ざして登る。山頂からはヒドいやぶこぎで、1h30min程で南越についた。見金にヤブなのでルートファインディングに注意を要する。この日も神戸から来たという二人組が道をまちがえてぼくらに追いついて来た。
南越からは歩き道をテクテクとたどって、名剣温泉へ

た。ここで無事下山を祝ってビールで乾杯。ほんとは車越から唐松を越える予定であったが、二人とも戦意を失なっていたのでやめにした。まあいいんじゃないすか。
とにかく無事登れたし、別に問題となる点もなかったし、ぼくたちとっては岩への大きな自信となり、とっても有意義な山行となりました。以上 ㊟ マサヒロ.

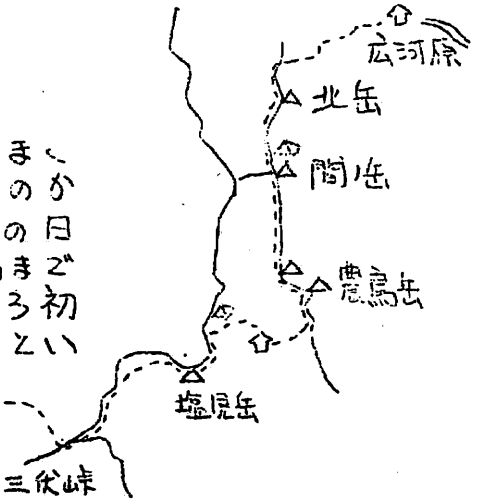
手を使わずに登ろうと思ったが、ちょっと無理だった。アキラ.

(セート図) 時間 9h30min.



南ア、北部縦走　10月15日～10月18日

Member、L竹ノ内秀実，岩村孝之，田辺浩，丸山長人



10月15日○
松本―伊那大島―塩川小屋
5:40　9:07(2:00)　13:00

前日竹ノ内さんとの連絡がうまくとれず、いつどこでおちあうのかあやふやなまま一年三人はこの日松本発一番の電車で伊那大島まで行ってしまった。結局のところ初めの日程が丸一日分ずれるということで、竹ノ内さんはこの日の夜伊那大島に着き、タクシーで塩川小屋へ向かった。

10月16日○
塩川小屋―三伏峠―塩見岳―雪投沢源頭
7:15　15:00　16:10

三伏の登りの途中で丸山がバテ気味ではき気をもよおしたりするので、マイペースで歩かせるため一番前に出す。(下山までこの形)この日はまったくのぽかぽかしたよい天気で、富士山から中央アルプス，北アルプスの槍・穂高まではっきりと見えた。三伏峠付近の日陰には霜がおりていた。この日の天場で眠っている時、いちばん端にいた田辺が虫に太ももをさされたらしく、縦走中はなんともなかったそうだが帰ってからだんだんはれあがってきて、だいぶ痛そうであった。

10月17日①
TS―池ノ沢小屋―広河内岳―農鳥岳―西農鳥岳―間ノ岳
6:00　7:40　11:50　13:15　16:00

雪投沢を下る道は整備されたよい道で良く、雪投沢源頭の天場からの降りはがみつきにくい程、沢に沿って下って

いくとそれとわかる。池ノ沢の道ははっきりとついている。稜線に出て富士の方を見ると下はちょっとした雲海で、富士山にはかさ雲がかかっていた。南の方を見ると絹雲が空一面をおおっている。沖縄付近にある台風20号に関係したものだろう。この日は丸山のペースが遅く、北岳稜線小屋までの予定だったが、間ノ岳山頂のすぐ下にテントを張った。夕に日陰になる所には雪がまばらにひっついていた。さすがに夕方ともなると寒い。

10月18日 ◎(北岳山頂付近で24°C)
TS—北岳—肩ノ小屋—広河原—甲府—松本
7:00 9:00 12:15 19:13
夜中からぽつぽつと雨が降り始めた。そんなにひどい雨ではない。この日は丸山の調子がよくないのと、初日の竹ノ内さんと一年のいきちがいのためEssenが一日分足りなかったため、広河原から甲府へ下山した。(予備1日分)

(丸山)

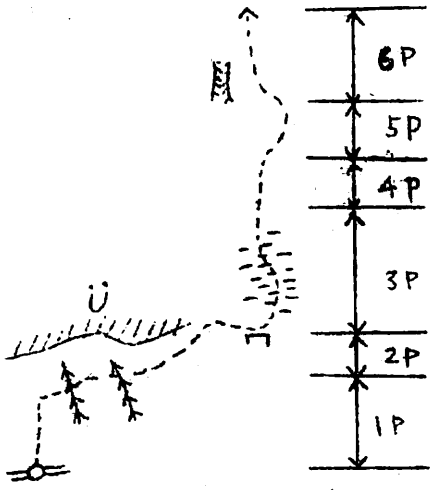
明星山岩登り　10月3日～10月4日

Member　L 加藤喜章（A-3-Ⅲ）
　　藤井卓也（S-1-Ⅰ）

10月3日①　小滝駅―硬玉狭
　　P6南壁正面壁ルート登攀

10月4日①|⓪　P6南壁吉田ルート登攀
　　硬玉狭―小滝駅―松本

正面壁ルート　取付 10:30　終了 4:30



1P、Ⅴ A1 40m
　Ⅲ+A0のフェースよりⅤのトラバースへ入りアブミトラバース。そしてアブミビレー

2P、Ⅳ A1 40m
　アブミで右上し、カンテを越えフリーでテラスへ。

3P、Ⅳ A1 30m
　垂直なスラブをA1で越える。

4P Ⅲ 40m
　フェース

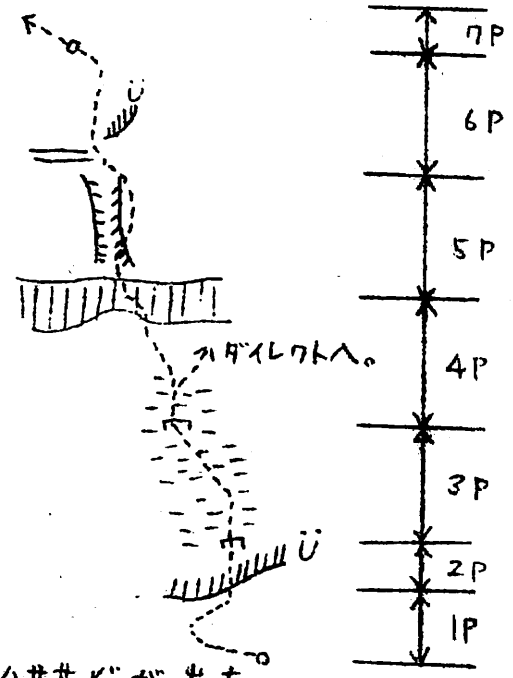
5P Ⅲ 30m
　フェース

6P Ⅰ～Ⅲ
　ブッシュ帯を中央バンドまで
　3pich

7P 左岩稜の凹を登る。
　終了

感想　猿が出た。
　1Pのフリーのトラバースがこわい。
　先行パーティーがいたため遅れた。
　如何なる訳か、RCCに比べ、1Pルートない。

吉田ルート　取付 6:30　終了 11:30



1P、Ⅳ 30m
左へトラバースの後
右上しハングの下へ。

2P、A2
ハング。(ひさしでない)

3P、A1 40m
スラブ

4P、Ⅳ A1 40m
A1で城塞最奥へ
向かい回り越え、
アブミビレー。

5P、Ⅲ 30m
ルンゼの右のフェース
を登り、ルンゼの最
奥でビレー。ピトン
が少ない。

6P、Ⅳ+ 35m
ビレーポイントを左
へ回り込み、もろいフ
ースを登り終了。

7P、コンテですぐに中央
バンド

8P、左岩稜の凹角

感想　ムササビが出た。
高度感がすばらしく、正面壁や、
左フェースに比べておもしろい。
6PのⅣ+のフェース、RCCによると
Ⅲであるが、近くに見当らなかった。

左岩稜からの下降、
凹角の終了点に横があり、直ガトラバースしている。
これに沿ってトラバースしてゆき、2本目のルンゼを下降
する。しばらく下降すると右岸にエボシリッジが見える。
エボシリッジの最前に急になるので、その手前をもっと
西面にトラバース。次のルンゼを下降し、傾斜が急で
危険な地点を右岸の岩場のバンドへトラバースする。
明るければアップザイレンなしで次のルンゼへ下降で
きる。そのルンゼを下降してゆけば、終了点より、約1時間
で降りられる。くれぐれも左ルンゼや、エボシリッジの1本西面
のルンゼに降りないこと。下には岩が待っている。